

PICK UP!!

お 職員の推し本

鴻上尚史のおっとどっこいほがらか人生相談

鴻上尚史 / 朝日新聞出版

誰だっていろんな悩みを抱えて生きていて、時には誰かに相談したくなるもの。そんな悩める人のお悩みに答えるのは作家で演出家の鴻上尚史さん。どんな時も悩みにしっかりと寄り添い、時に厳しいことを言いながらも、とにかく真摯に対等に一生懸命答えてくれます。そして注目すべきは「必ずしも白黒つけなくてもいいじゃない」というその考え方。一方的に正解を伝えるのではなく、安易に回答を押し付けるのではなく、やんわり新しい考え方を提案してくれるので、目から鱗が落ちてはっとさせられることばかり。一冊読み終えれば人生にエールを貰った気分になること間違いなしです。



カエルのおでかけ

高島 那生 / フレーベル館

どしゃぶりの雨の中、「いい天気!」と、カエルはうきうきでお出かけに出かけます。私にとってのお出かけしたくなるような「いい天気」はもちろん晴れ。雨が續くと、そろそろ晴れないかな〜と書いてしまいますが、もしかするとこのカエルのように、世の中のカエルたちは大喜びしているのかも? カエルの表情や動きが軽やかで、絵本全体のはっきりとした色彩も相まって、雨でどんよりとした気分が吹き飛ばされるかもしれません。雨が多くなってくるこの季節に、ぜひ読んでみてくださいね♪



方舟を燃やす

角田 光代 / 新潮社

昭和、平成、令和を生きてきた人には、それぞれの時代を思い起こすことができるのではないのでしょうか。1967年に鳥取で生まれた柳原飛馬が育った時代は、ノストラダムスの大予言を信じ、コックリさんに夢中になった昭和のオカルトブーム真っ最中。戦後すぐ生まれた望月不三子は、マクロビオティックの食事子育てをしたがうまいくかないことが多く…。二人の主人公を通じて、何かを「信じて」生きていくことの意味を考える小説でした。高度経済成長期からコロナ禍までの日本の様子に、つい自分の人生も重ねながら読んでしまいました。

